

[概要]

本研究では、①妻が母親業をどの程度優先するかは、家庭の経済状況に影響を受けること、②「労働時間+家事時間」が同等であるべきという観念が家事分担に影響すること、③妻への家庭への愛情が家事時間に影響すること、の3点について検討を行い、妻の家事時間を規定する要因を解明した。アンケート調査から「家庭の経済状況が良いほど妻は母親業(家事・育児)に専念し、家庭の経済状況が悪いほど妻は賃金労働に専念する」という仮説が支持された。また、聞き取り調査において、相手の業務量の多さを配偶者が理解している場合に家事分担の平等意識が高まること、夫と妻の業務量が変わらずとも、妻の家庭への意識が大きい場合は妻の家事時間が増加することが明らかになった。

キーワード：共働き世帯，母親業の優先度，経済状況，